



学外イベント紹介

NO.61

筑波・香港大学グローバルリーダーズ・プログラム（二次募集）（高1・高2生徒向け）

【研修目的】

将来グローバルに活躍することを目指す高校生を対象に行うプログラムです。筑波大学と香港大学の教員からのセミナーに加え、現地で事業を展開する企業でのフィールドワークに参加し、グローバルリーダーに不可欠な①人間力②異文化適応力③コミュニケーション力を学びます。

【プログラムの特徴】

香港に精通した筑波大学教員による現地指導・引率

香港大学（アジア大学ランキング4位・世界大学ランキング25位）における少人数講義

日本企業の現地法人を含む企業フィールドワークにもとづく、グローバル経営の最前線の現地学習

香港の高校生との交流会

社会・文化見学

【日程】

2019年3月21日（木・祝）～28日（木）予定

【要件・人数】

日常会話程度の英語が理解できることが望ましい。

募集人数：若干名

【費用】

約21万円予定（為替等の影響により変動する場合があります）

【選考日程】

応募締め切り：2018年11月5日（月）10:00AM（時間厳守）

一次選考結果発表：2018年11月9日（金）3:00PM（ウェブ上に掲示）

二次面接試験（日本語・英語）2018年11月18日（日）

筑波大学東京キャンパス文京校舎

最終合格者発表：2018年11月20日（火）3:00PM（ウェブ上に掲示）

【応募方法】

プログラムのウェブサイト上にある申し込みフォームに必要な事項を入力し、下記のテーマで英語または日本語のエッセイを書いて下さい。

エッセイ（英語で300 words または日本語で600字程度）

Choose one topic from 1)business, 2)culture or 3)society, and write what you want to study about it.

*応募は個人で行っていただきます。筑波大学からチラシが届いていますので希望者に差し上げます。グローバル教育部（3号館1階）まで来て下さい。金曜日は担当者不在となります。

大学入試英語 4 技能試験の動向

現在の高校 1 年生以下の生徒諸君に関係してくる、2021 年度の大学入試で導入される英語 4 技能試験について 9 月 25 日に東京大学が以下の発表を行いました。既に報道でご存知かと思いますが、再度要点をご紹介します。

【1】基本方針

次の(1)~(3)のうちのいずれか 1 つの書類の提出を求めるとします。

- (1)大学入試センターによって確認された民間の英語試験の成績（ただし、CEFR の対照表で A2 レベル以上のもの）。
- (2)CEFR の A2 レベル以上に相当する英語力があると認められることが明記されている調査書等、高等学校による証明書類。
- (3)何らかの理由で上記(1)(2)のいずれも提出できない者は、その事情を明記した理由書。

* 上記(1)~(3)のいずれかの提出がなければ出願は受理できませんが、受理された後は合否判定の資料としては用いません。

かいつまんで言えば東京大学の場合は 4 技能型英語試験の基準以上のスコアは出願時に必要にはなるが、合否の判断には利用されないということです。受験生の居住地に応じて民間試験を容易に受験できる交通環境が整っている生徒とそうでない生徒が出てしまうことへの配慮、民間試験の受験料は決して安価ではなく早い時期から試し受験をして場慣れをするだけの経済的ゆとりの有無によって生じる不公平感への配慮が働いて上記のような結論に至ったと思われます。

上記はあくまでも東京大学が掲げた方針です。7 月下旬から 10 月にかけて他の国公立大学でも 2021 年度入試における英語民間試験の活用方法について発表をしております。詳細は各大学の公式ホームページでご確認下さい。東京大学の動向を見てからということ、まだ発表をしていない大学があるのも事実です。

東京大学が発表した文書には以下の記述もあります。

東京大学は「アドミッション・ポリシー」に、「入学試験の得点だけを意識した、視野の狭い受験勉強のみに意を注ぐ人よりも、学校の授業の内外で、自らの興味・関心を生かして幅広く学び、その過程で見出されるに違いない諸問題を関連づける広い視野、あるいは自らの問題意識を掘り下げて追及するための深い洞察力を真剣に獲得しようとする人」を「期待される学生像」として掲げています。

上記の文書を読むと本校が実施している社会科の総合学習や学年の枠を超えた KS プロジェクトなどを通じて好奇心や探求心を高めた生徒諸君は正に「期待される学生像」だと言えるのではないのでしょうか。どうか目先のテクニックにとらわれずに、小さな「なぜ」を追求するスタンスを常に持ち続けていただきたいと思います。

用語解説

CEFR の A2 レベルとは

「ごく基本的な個人情報や家族情報、買い物、地元の地理、仕事など直接的関係がある領域に関しては、文やよく使われる表現が理解できる。簡単で日常的な範囲なら、身近で日常の事柄について、単純で直接的な情報交換に応じることができる」レベルを指します。

(ブリティッシュ・カウンシル、ケンブリッジ大学英語検定機構訳によります)

大学入試センターが参加要件を満たしているとする外部英語検定試験とは

ケンブリッジ英語検定、実用英語技能検定(英検)、GTEC、IELTS、TEAP(PBT)、TEAP CBT、TOEFL iBT、TOEIC L&R /TOEIC S&W の8つです。

THE 世界大学ランキング

イギリスの教育専門誌(**Times Higher Education**)が9月下旬に2019年版世界大学ランキングを発表しました。ご参考までに上位10大学は以下のようになっています。ランキングの指標はこれ以外にもあり、資料によって順位は変動しますのでその点は御留意下さい。

- 1 オックスフォード大学 (イギリス)
- 2 ケンブリッジ大学 (イギリス)
- 3 スタンフォード大学 (アメリカ)
- 4 マサチューセッツ工科大学 (アメリカ)
- 5 カリフォルニア工科大学 (アメリカ)
- 6 ハーバード大学 (アメリカ)
- 7 プリンストン大学 (アメリカ)
- 8 イェール大学 (アメリカ)
- 9 インペリアル・カレッジ・ロンドン (イギリス)
- 10 シカゴ大学 (アメリカ)

42 東京大学 (日本) 2018年は46位

65 京都大学 (日本) 2018年は74位

日本の私立大学では以下のような大学がランクインしています。

401~500 藤田保健衛生大学、帝京大学

601~800 順天堂大学、慶應義塾大学、近畿大学、日本医科大学、立教大学、早稲田大学

上位はアメリカ・イギリスが独占していることが分かります。日本の国立大学も昨年より順位を上げて健闘しています。また私立大学でも昨年のランクにはなかった大学が新たにランクインしていました。

このランキングは以下の13の分野・指標に基づき作成されています。

- ◇教育力（学習環境） 30%
 - ・評判調査 15%
 - ・教員数と学生数の比率 4.5%
 - ・博士号取得者数と学部卒業生数の比率 2.25%
 - ・博士号取得者数と教員数の比率 6%
 - ・大学全体の予算 2.25%
- ◇研究力（論文数、収入、評判） 30%
 - ・評判調査 18%
 - ・研究費収入 6%
 - ・研究の生産性 6%
- ◇引用数（研究の影響力） 30%
- ◇国際性（教職員、学生、研究） 7.5%
 - ・海外留学生数と国内学生数の比率 2.5%
 - ・外国籍教職員数と国内教職員数の比率 2.5%
 - ・国際共同研究 2.5%
- ◇産業界からの収入（知識移転） 2.5%

アジアでは中国、シンガポール、冒頭のイベント紹介でも出ていた香港大学が上位にランクインしています。日本の私立大学も偏差値だけの基準とは異なる指標で算出されたランキングですとかなり異なる印象を抱いた方が多いかもしれません。研究論文がどれだけ引用されるかといった尺度は中学高校生には肌感覚では把握しにくいと思います。生徒諸君が大学の選択をする際には無意識の内に日本国内という土俵の中で考えがちですが、これからは世界の中での立ち位置という視点からも検討してみる必要があると思います。

THE World University Rankings では日本の大学だけのデータも公表しております。現在公開されているのは2018年のデータです。ご参考までに前回は以下のようになっています。

- 1位同率 京都大学、東京大学
- 3位 東北大学
- 4位 東京工業大学
- 5位 九州大学
- 6位 北海道大学
- 7位 名古屋大学
- 8位 大阪大学
- 9位 筑波大学
- 10位 慶應義塾大学
- 11位 早稲田大学
- 12位 秋田国際教養大学
- 13位 広島大学